

第3学年算数科学習指導案

日 時:令和6年6月10日(月)

13:30~14:15

場 所:3年生教室

授業者:

1. 単元名 「あまりのあるわり算」(第1時/全7時間)

2. 指導の立場

①単元の目標

あまりのある場合の除法について、計算の仕方を既習の除法と関連付けて考え、場面を式に表して計算することができる。また、場面に合わせてあまりを適切に処理することができる。

知 「あまり」の意味、あまりと除数の大小関係、及びあまりのある除法の計算の仕方を理解し、計算することができる。

思 既習の除法と関連付けて、あまりのある除法でも乗法九九を使って答えが求められることを考え説明したり、あまりの処理の必要な問題場面で、あまりの処理の仕方について考え説明したりすることができる。

主 あまりのある除法の意味や計算の仕方について、既習の学習を生かして考えようとする。また、あまりのある除法の場面を身の周りから見出すなど、生活や学習に生かそうとする。

②単元について

これまでに児童は、乗法九九を1回適用してわりきれぬ除法について学習してきた。本単元では、その学習を受けて、わりきれぬ場合の除法について学習する。具体的な場面を通して、あまりの意味や大きさについて理解したうえで、あまりの処理の仕方を理解できるようにする。

式や図を用いて考えを伝え合う活動を通して、自分や仲間が導き出した答えが問題場面に適しているかを確かめる学習活動を大切にしたい。

③児童の実態 男子 名、女子 名、計 名 実態は研究会にてお伝えします。

3. 研究テーマとの関わり

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

① 単元や単位時間における数学的な見方・考え方を明確にし、意図的、計画的な手立てを明らかにした数学的活動

本時の見方・考え方は、既習の乗法や除法と違うこと、あまりのある包含除でも乗法九九を使って答えを求められることに気付くことである。個人追究では、既習の学習を生かして、自分の考えをきちんともたせることを大切にしたい。また、全体交流では、様々な考え方が出てきたときに、3の段を使えば答えを求められることに気付けるよう、それぞれの考え方の共通点を整理し、考えを統合していきたい。

②数学的な見方・考え方を働かせて、筋道を立てて考えたり、統合的・発展的に考えたりする力が育っているかを、どの場面でどのように見届けるのか焦点化した、指導改善

個人追究に入る前に見通しをもたせ、個人追究で既習の学習を生かして、おはじきや図、式を使った考え方ができているかを見届ける。全体交流では、児童に考え方の共通点を挙げさせたり、それを板書に位置づけたりして、どの考え方も3の段を用いて求めていること、6人に分けられて2個余ることを理解しているかを見届ける。

4. 本時のねらい

既習の除法と関連付けて考えることを通して、あまりのある包含除でも乗法九九を使って答えが求められることに気づき、あまりの意味と計算の仕方を理解することができる。(知識・技能)

5. 本時の展開 (1/7)

	学習内容	指導・援助・評価
つかむ	1. 今までの学習を振り返る。 15 こ入りと 18 こ入りのあめがあります。3 こずつ分けると、それぞれ何人に分けられますか。 ・何人に分けられるから $15 \div 3$、$18 \div 3$ になる。 ・3 の段の九九を使えばできる。	・デジタル教科書を用いて、割り切れる除法では、九九を使えば答えを求められることを復習する。
見通す	2. 本時の問題を確認する。 あめが 20 こあります。1 人に 3 こずつ分けると、何人に分けられますか。 ・3 個ずつ分けると何人になるから、$20 \div 3$ になる。 ・3 の段に 20 はないからぴったり分けられない。	・今までの除法と違うところを挙げさせ、「3 の段に答えがない」ことや、「ぴったり分けられない」ことをおさえてから課題を提示する。
考える	3. 課題をつかむ。 ぴったり分けられないときの答えのもとめ方を考えよう。	・今までの除法の学習ではどのように考えてきたかを振り返り、今回も図や九九を使えばできそうといった見通しをもたせる。
考える	4. 見通しをもつ。 ・おはじきや図を使えばできそう。 ・九九を使ってもできそう。	・既習の学習を生かして、おはじきや図、式を使った考え方ができているかを見届ける。
考える	5. 自分の考えをもつ。 ①図を使って考える。  答えは 6 人で 2 こあまる。	・おはじきで考えた子には図で表せないか問いかける。
考える	②九九で考える。 $3 \times 1 = 3$ 、 $3 \times 2 = 6$ ・・・ $3 \times 5 = 15$ 、 $3 \times 6 = 18$ 、 $3 \times 7 = 21$ 7 人には分けられないから、答えは 6 人になる。	・図で考えた子には、九九で考えられないか問いかける。
深める	6. 全体交流をする。 ・図を使って、○を囲みながら説明する。 ・九九を使って説明する。 ・図も九九も 3 のまとまりがいくつあるかを考えていることに気づく。	・なぜ 3×6 で止めるのかを考えさせる。3×7 だとあめが 1 つ足りなくて 7 人目に分けられないことに気付かせる。
深める	7. あまりのある除法の式と答えの書き方を知る。 ・$20 \div 3 = 6$ あまり 2 答え 6 人に分けられて、2 こあまる。	・図と九九をつなげ、考えを統合する。
まとめ	8. 本時をまとめ、練習問題(p.90 旗①)に取り組む。 ぴったり分けられないときの答えも、九九を使ってもとめることができる。 $18 \div 3 = 6$ あまりなし→わりきれ $20 \div 3 = 6$ あまり 2 あまりあり→わりきれない	・$20 \div 3 = 6$ でよいのかを問い、あまりを明記する必要性について考えさせる。
		評価規準〈知識・技能〉 あまりのある除法のあまりの意味と計算の仕方を理解している。